

会議の概要

平成29年度 第6回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 大山小学校学校運営協議会

日時 平成29年11月20日（月）16:10～17:40

場所 大山小学校 2階図書室

進行 大山小 教頭

1 開会のことば おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 武田 伸一

2 教育長あいさつ 大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎

- ・今日は二つのことについてお話させていただく。一つは県の町村教育長協議会の中での話題について。県は「がんばる学校応援プラン」を推進しているが、その中身は、学力向上、教員の多忙化解消も含めた学校のチーム力の向上、地域とともにある学校づくり、体力向上、スマホやインターネットとの付き合い方、特別支援学校の整備などである。その中で強調されたのは「地域とともにある学校」がこれから大事になってくるということであった。今の時代、人間関係が非常に希薄になっており、face to face がこれからのAI時代に大事になるということである。大玉ではさまざまな取り組みによって、人と人とのつながりを大切にしてきた。そのことの意義を改めて確認できた。
- ・二つ目は12月8日に東京で「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」に私がパネリストとして参加させていただくことになった件について。文科省から「子どもたちが創る30年後の日本」というテーマでいろいろなビジョンを語って下さいというオーダーが来た。そのことについての事前調査として、「ビジョンに向かって進むためのあなたにとっての原動力は何ですか。」という問いがあった。

ビジョンについては「名実ともに日本で最も美しい村 大玉村」と回答させていただいた。大玉村が日本で最も美しい村連合に加入した時、教育委員会では「日本で最も心の美しい子どもたちを育む教育」を掲げ、あいさつ運動や小さな親切運動などを展開している。今後もコミュニティ・スクール、おおたま学園構想を核とした村づくりを進めていきたいと思っている。

ビジョンに向かうための原動力については次の4つを挙げさせていただいた。

1. 本村教育の基本目標の確かさ、奥深さ。「『夢を育てる教育』おおたまに学び、世界とつながる人間の育成～みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ おおたまの教育～」
2. 村民が学校に寄せる熱い思い。「いい村はいい学校を育てる。いい学校はいい村をつくる。」
3. 子どもの健全な成長に多くの人に関わることの重要性。「人は人を浴びて人になる。」
4. 教育に果たす体験活動の重要性。「1オンスの体験は、1トンの理論にもまさる。」

また、大玉村が目指す教育の共通理解のために大きな役割を果たしているものに、コミュニティ・スクール委員会がずっと続けてくださっている「教育フォーラム」と、コミュニティ・スクール委員の皆様、おおたま学園の先生方、各団体の方々にご協力いただいている「おおたま・オータム・フェスタ」があることを挙げさせていただいた。担当教員によるポータルサイトをもっと充実させていくことも、共通理解につながっていると思う。

今日は大山幼稚園・大山小学校に特化したコミュニティ・スクール委員会なので、課題についてご意見を出していただいて、おおたまの教育の充実に活かしてほしいと思う。

3 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会 会長あいさつ

会長 伊藤 和弥

自己紹介も兼ねて、オープンスクールの感想など述べさせていただきたいと思う。今日は社会科に参加させていただいた。担当の先生が分かりやすくていねいな指導で、興味深い授業をされていた。またその後の分科会では、指導主事の先生から、大玉村が幼・小・中連携のおおたま学園の仕組みを生かし、それぞれ違った視点での気づきを情報公開しながら共有することは、大変重要なことであるというお話があった。

先生方がおおたま学園として取り組んでくださっていることを再確認して、コミュニティ・スクールとしても何かしらお役に立っていきたいと思っている。本日もよろしくお願いします。

4 自己紹介（オープンスクールの感想を含めて）

- ・各自自己紹介を行う。

（教育長退室）

5 協議

進行 大山小教頭 相沢 周

（１）オリエンテーション

（２）本校・園の教育活動について 及び 本日のテーマについて

（校長/園長より テーマについての知識・背景を共有）

- ・夢を育てる教育。キーワード「生き抜く力の育成」。

共に、響く、強い、郷の４つの教育をもとに、キーワードを「生き抜く力の育成」として、家庭・学校・地域の連携強化、コミュニティ・スクールの充実、おおたま学園構想による教育の充実を進めている。

- ・大山小学校と幼稚園では、教育目標「めざせ 夢に向かってがんばる子」を共通した教育目標としている。
- ・めざす児童像・幼児像は以下の３点。
 - 自ら進んで学ぶ（遊ぶ）子
 - なかよく助け合う（遊ぶ）子

○健やかでたくましい（元気に遊ぶ）子

- ・教育活動の実践としては以下のとおり。

〔幼稚園〕

- ・子どもの主体的工夫を生かしながら、遊びを通して学ぶ。
- ・身近な人とのかかわる力の育成。地域のボランティアの方々、子ども同士、小学生との交流など。
- ・体を動かす遊びに親しむ環境の充実。園庭や小学校の校庭で遊んだり、近隣への散歩、家庭教育学級での親子で楽しむ運動などの取り組み。

〔小学校〕

- ・授業の充実のため、発問の工夫、聞く話す書くことの重視、自ら解決していく学習体験の重視など。授業研究会を生かした授業の充実に取り組んでいる。
- ・おおたま学園の幼小連携では、生活科で幼小の教師と一緒に授業研究を行う。
- ・学力向上の手立てとして、チャレンジタイムを朝と各週水曜日の昼休みに日課として位置付けて学習の定着を図る。
- ・学びを支える学習基盤作りのために、家庭学習のてびきによる学習習慣の定着化を図る。
- ・読書活動の推進では、ボランティアと教員との輪番で、読み聞かせを行っている。また、家族読書おすすめ図書百選をもとにし、家族読書パンフレットを配付し家庭と連携しながら進めている。
- ・自他のよさや違いに気づき認める心を育て、進んで周りの人や社会に関わる態度を育てるため、アンケートやＱＵテストの活用。
- ・日々の児童の観察はもとより、学校生活アンケートを実施し、目に見えにくいところでの児童の様子を把握して素早く対応できるよう努める。
- ・各学級には学級の目当てを掲げてよりよい学級づくりのための意識を高めている。
- ・人権フィルターを活用して、道徳の授業はもとより各教科の充実にも力を入れている。
- ・自己選択・決定の場の設定を意識しながら、自己存在感を持たせる授業を行っている。
- ・他を思いやる心の醸成のために、あいさつや返事、積極的な会話につながるコミュニケーション活動の支援、交流を通し認め合う仲間づくり、地域素材の活用と体験の充実を図る。
- ・おおたま学園の小・中連携では朝、小学生が中学校に行きあいさつ運動を行っている。
- ・異学年交流については昼休みを利用して縦割り班によるふれあいタイムを設定している。高学年児童が指導しながらみんなで楽しく遊んだり、ゲームをしたりしている。
- ・たくましい心身を育てる、健康や安全に気を付けて安全に生活できる力を高める。
- ・やりぬく心の育成のために、教科体育の充実、業間、昼休みの体力づくり。
- ・おおたま学園生徒指導委員会の取り組みに「我が家のアウトメディアデー」がある。家庭毎にアウトメディアデーを設定して取り組む。
- ・安全教育については、日々の安全指導に加え、交通教室、避難訓練などを行い具体的な指導を行っている。

- ・おおたま学園との連携、保護者、地域各団体との連携、大山幼稚園との連携を図りながら教育活動を推進している。

（３）グループ協議【３０分】

- ①意見（思い）を出す。（付箋を利用）《１０分》
- ②出た意見について付箋を貼りながら、方向性をもって話し合う。《２０分》

（４）グループ別協議内容の発表・共有【５分】

A グループ（読書活動とアウトメディアデーのさらなる推進に向けて）

【学校・幼稚園ができること・行いたいこと】

- ・読書活動をもっと推進する。そのためには読書のきっかけづくり。本の人気ランキングなどを作って子どもの興味を向けさせる。
- ・図書のネットワーク化もすすむので子どもが読みたくなる本を増やしてほしい。
- ・メディアの怖さや影響等を親に伝える。

【地域・保護者ができること・行いたいこと】

- ・親が本を読み、親子で読書の楽しさを共有して欲しい。
- ・子どもが好きそうな本をプレゼントする。特に祖父母に呼びかけてはどうか。子どもが欲しいがるゲームソフトを買い与えてしまいがちだが、大玉村として「本をプレゼントしませんか」という運動をしたらいいのではないかな。
- ・読み聞かせについては、ボランティアさんをお願いして実施しているが、親自身も読み聞かせる楽しさ、子どもたちが「聞いてくれる」楽しさを体験して欲しい。

【共通のこと】

- ・子どもの話に目と耳で向かい合うことが大事なのではないか。

B グループ（あいさつ日本一の小学校・大玉村を目指すために。よりよい家庭・地域での過ごし方を身に付けるために）

【学校・幼稚園ができること・行いたいこと】

- ・教師間で共通理解が大切。あいさつ運動やその他の活動についても、活動の意義を共通理解しどの先生も同じ指導ができるようにする。
- ・学校から家庭へ情報発信。
- ・地域での子どもの見守りなど、地域の情報を子どもたちに伝える。
- ・生活習慣の問題については、子ども自身に問題を考えさせ、課題解決に向けての取り組みを考えさせると、意欲が高まり定着化につながるのではないかな。

【地域・保護者ができること・行いたいこと】

- ・学校での取り組みを理解し、家庭でも取り組む。

Cグループ（体も心も元気な大山の子を育てるために〈小学校〉）

【学校・幼稚園ができること・行いたいこと】

- ・車の送迎問題。小学校ばかりでなく、中学校や高校も送迎問題はある。歩いて通うと運動の習慣化につながり、それが食事の習慣化にもつながる。また、早寝早起きの生活習慣の改善にもつながるのではないかな。

【地域・保護者ができること・行いたいこと】

- ・学校任せにせず、家庭でできることは家庭でやる。
- ・校庭の芝生がとても気持ちよく、運動に最適なので家庭でも利用して欲しい。休日の校庭使用については、自己責任で使えるよう村に働きかけて決まりを作り、休日にも使用できるようにしたらどうか。
- ・村民プールは土曜日の午前中、村内の子どもを対象に無料開放となり、村民屋内運動場も土曜日の午後無料開放している。このことを大山地区の子どもたちにも周知し活用してもらいたい。
- ・東京オリンピックも近づいてくるので、有名な選手による講演や、実技指導といったスポーツイベントがあればいいかと思う。
- ・食事や早寝早起きなどの定着。

Dグループ（心も体も元気な大山の子を育てるために〈幼稚園〉）

【学校・幼稚園ができること・行いたいこと】

- ・原発事故前のように近所の神社などに散歩に出かけ、木の実拾いなどもいいだろう。最近では保護者の理解も得られるようになってきた。
- ・子どもが安全に遊べる場所を紹介していただけないか。教員も現場に足を運び安全を確認して、遊ぶ場所を見出していく努力が必要。
- ・園舎内や園庭で遊具等を有効に利用し、運動遊びができるような工夫をする。
- ・園庭の芝生化により土遊びができなくなっている。砂場はあるが、砂遊びとは別に土遊びができるような場所も確保したい。
- ・来年度3年保育が始まることもあり、学年ごとの砂場の確保も必要。学年で遊び方が全然違うため、年長児が小さい子に合わせて遊びを制限されてしまうので。

【地域・保護者ができること・行いたいこと】

- ・自分のことは自分でさせるという大人の意識付け。
- ・近くのお子さんでも車での登園する姿もある。参観日を利用して徒歩での登園デーを設け、歩く習慣をつけたい。歩く習慣が、小学校へ行ってから集団登校につながると思う。
- ・健康な体をつくるためには食が大切。自分で野菜や花を作ったり、地域の伝統食を食べさせていただくなどの経験があるといいと思う。

E グループ（心も体も元気な大山の子を育てるために〈幼稚園〉）

【学校・幼稚園ができること・行いたいこと】

- ・幼稚園の前の道路をトラックなどが減速をせずに通っていくという現状があり、散歩の際危険を感じる。
- ・交通規制の強化と、スクールゾーンの表示をもっと大きく分かりやすくするなどの対策が必要。
- ・散歩で道路を歩くときは先頭に先生がつき最後に支援員さんがつくのだが、心配なお子さんがあるとどうしても他の子どもたちが手薄になってしまう。学校支援ボランティアは事前に依頼しないと人が確保できないので、当日すぐにでも来て下さるボランティア様がいて下さると安全に歩けるようになると思う。
- ・今ある遊具の工夫、直接体験のできる場としてビオトープのような場所があるといいのではないかな。

【地域・保護者ができること・行いたいこと】

- ・ドライバーの運転マナーについて批判するのではなく、親切な運転をして下さる運転手の方がいたら、その運送会社には感謝の意を伝えて、ドライバー全員に浸透していくような心がけ、いいところを広めていくようなPRが必要。
- ・幼稚園周辺に安心して遊ぶ場所がないので、村民体育館の前の駐車場のあたりに遊具のある公園があるといいなという意見が出た。
- ・グランドの開放があると外遊びが充実すると思う。

6 講評（伊藤会長）

- ・グループに分かれての熟議で充実した時間を過ごすことができた。熟議をとおして違った意見、発想を聞くことができる場があるのは素晴らしいこと。コミュニティ・スクール委員会では、なかなか熟議の時間を取ることができない状況が続いているので、これからこういう機会を作っていきたいと思う。
- ・行政に対しての要望となるご意見も多かったように思う。限られた予算の中で大変かと思うが今後に生かしていただければと思う。

7 御礼のことば・今後に向けて（校長/園長）

- ・今日皆様からいろいろなご意見をいただいたので、もう一度これを見直して、さらによい活動に生かしていきたいと思う。

8 閉会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 後藤 みづほ）

集中して熟議をしていただいて、具体的な案もでていたようなので、進めていただければと思う。学校と家庭と地域が少しずつでもつながりが深くなっているなというのを実感した。今日はありがとうございました。



グループ協議のあと、各グループから出た意見を発表していただきました。



最後に伊藤会長から、講評として感想をいただきました。